

エー A ジー G ファイブ 5 だよ

在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業 (<https://ag-5.jp>)



日本人学校オンライン教員研修

～コロナ禍前の環境整備・試行錯誤、そして合同研修の充実へ(マニラ、大連、青島の日本人学校)～

AG5運営指導委員・目白大学専任講師 近田 由紀子

オンライン会議・研修会等が当たり前になってきた今日この頃ですが、少し遡って振り返ってみると、どうでしょう。2020年、コロナ禍となり次々に起こる事態への対処に、先生方は試行錯誤し、できることから取り組もうと必死でした。本稿では、マニラ、大連、青島の日本人学校が、ITも研修内容も他校に先駆けて行ったオンライン教員研修への取り組みや、先生方の思い、参加者の感想などを紹介しながら、オンライン教員研修の成果や可能性について考えてみたいと思います。

コロナ禍以前、一部の企業等ではオンライン会議が日常的でしたが、一般的ではなく、教育現場ではほとんど行われていませんでした。

二年前のそのような中、二〇一九年度からAG5「日本人学校におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のための日本語力向上プログラム」の開発において、オンライン教員研修にも取り組み始めたのが、マニラ、大連、青島の日本人学校です。

コロナ禍前のオンライン会議・研修で築いた基盤

各校のAG5担当教師とAG5運営指導委員がスカイプやWeChat等を使ってプロジェクトの打ち合わせをしたのが、オンライン研修の始まりです。現地を訪問して対面での教員研修を実施する前に、各校の状況を把握し、実態に合わせた研修を企画・準備することができました。それぞれの国の事情により、使える通信アプリは様々でしたが、メールや電話では伝わりにくいことも、リアルタイムで顔を合わせて話すことにより、とてもスムーズに適切に進めることができました。

Zoomを使い始めたのは、十一月からでした。翌年二月にマニラ日本

人学校で開催される日本人学校合同研究会に向けて、オンライン参加者も想定しての取り組みでした。しかし日本人学校でのZoom導入には、

通信環境整備も含め課題が山積していました。Zoom機器、高性能カメラ、マイク等の機材を整えることから、オンライン授業公開・全体会に向けて何度もシミュレーションを重ね、二月末、初めての日本人学校合同研究会の開催まで漕ぎ着けました。

合同研究会当日は、中国でのZoom使用が不可となり、大連と青島の日本人学校の発表はWEBサイトで提示するのみと変更しました。台北・台中日本人学校、浜松市教育委員会とZoomでの情報交換会の後、マニラ日本人学校の授業公開(一・二・三年日本語学級、五年在籍学級は、各教室からZoomで配信し、他校の参加者は公開授業をリアルタイムで参観することができました。全体会もオンラインで、文部科学省国際課長をはじめ、他校の参加者とマニラの教職員が学び合うことができました。この頃、世界はコロナ禍に突入。日本人学校の教育活動も巻き込まれていきましたが、日本人学校合同研究会に向けたIT環境整備や研修の実績が、この後、功を奏することになります。

試行錯誤をチャンスに変えた オンライン教員研修

二〇年度の教員派遣や対面での学校再開の目処が立たない中、マニラ、大連、青島の日本人学校の先生方は、前年度に整えたIT環境やノウハウを生かして、オンライン授業、ハイブリッド授業(オンラインと対面)を始めました。何もかも初めてのことでしたが、三校の先生方は、「AG5でIT環境を整備し始めた頃はとても苦労したけれど、そのおかげですぐにオンライン授業に取り組みすることができて感謝しています」とおっしゃってくださり、他の日本人学校に先駆けて様々な取り組みを始められました。

同時に、どの先生方も何が正解で何をしたら効果的なのか手探り状態にあることへの不安を抱えていました。さらに良い方法はないかと情報も強く求めていました。そこで、二一年六・八月の三カ月間に集中して、表1に示すオンライン教員研修を三校の教員に向けて実施しました。六月の情報交換会で各校の現状や課題が明らかになったため、その課題解決のために、七月にはマニラと青島の日本人学校の先生方が自主的に研修を企画・公開しました。Zoom

によるアクティブラーニングやハイブリッド型の授業は、当時本当に先駆けで、新しい取り組みに目を見張るものがありました。八月には、国内待機中の派遣教員がすぐに各校の取り組みに参加できるよう、日本語力向上プログラム開発に関する研修

を企画・実施しました。どれも必要に迫られての教員研修でしたので、先生方の意識も高かったように思います。また、赴任できずに国内待機を強いられていた派遣教員向けオンライン教員研修には、二十二名の教員だ

表 1

6/12	AG5テーマ2 マニラ、大連、青島の日本人学校情報交換会	現状と今後の取り組みについて ・オンライン授業・時間、開校の見込み、日本語指導の実際 ・日本待機の先生方との関わり・研修 ・児童生徒の困り感・つまずきの把握 ・ICTの活用ノウハウ
7/9・10	自主研修会：マニラ日本人学校主催	Zoomでもできるアクティブラーニング ・JamBoardを活用したグループワーク ・中学部1年生理科「水溶液の性質」授業公開
7/16	自主研修会：青島日本人学校主催	多文化共生をテーマにしたハイブリッド授業公開 ・中学部3年社会科（公民的分野）「私たちの生活と文化」
8/2	AG5テーマ2 国内待機者派遣教員向けオンライン研修会	AG5テーマ2 日本語力向上プログラムについて ・マニラ、大連、青島の日本人学校の取り組み ・教科と日本語の統合学習実践例紹介（浜松市）

けでなく文部科学省国際課企画官も参加され、盛況でした。この頃のオンライン教員研修として、どのような学びがあったのか、参加者のアンケートから一部抜粋して紹介します。○コロナ禍にあってもオンライン対応をされ、学びを止めない姿勢が素晴らしいと思った。
○画面上だが、挑戦や達成を経験した先生方のお顔を拝見でき、希望が持てた。
○AG5の目的や我々の立場を確認できた。
○それぞれの特色を生かし丁寧な取り組みをされていて参考になった。
○生活言語に支障はなくても、学習言語能力に課題があることを初めて知った。
○紹介された実践は、在籍学級の子供にとってもわかりやすいものになると思う。
○このような研修の機会を与えていただき感謝している。すぐに実践してみたい。
○派遣前の国の研修でもAG5の取り組みについて取り入れる必要があると思う。
三カ月間という短期間でしたが、必要な時に必要なことを集中して研修できたのも、オンライン教員研修ならではの効果ではないでしょうか。

先生方が不安を払拭し新たな教育活動への展望をもち、日本人学校の教員としての使命を確固たるものにしていく姿がここに見られます。

深まり広がるオンライン教員研修

二〇年秋頃になると、三校の派遣教員も現地に赴き、どの学校も困難を抱えつつも、それぞれの状況に応じてオンライン・ハイブリッド・対面、様々な形態をとりながら、柔軟に教育活動を進められるようになってきました。ここに至って初めてAG5のテーマ2「バイリンガル・バイカルチュラル人材育成のための日本語力向上プログラム開発とそのための教員研修」を深められるようになりました。各校の実践も積み上げられ、成果も見え始めてきました。

そこで、三校だけではなく世界中の日本人学校にオンライン教員研修への参加を呼びかけて広く実践成果を発信したり、教員のネットワーク構築にも寄与したりできるよう、表2に示すようなオンライン教員研修を企画・実施することにしました。

一九年度は授業公開を含めたため平日に開催しましたが、二〇年度からは多くの教員が参加できるよう、週末に企画しました。すると、二〇

表2

2020/11/7	2020日本人学校における日本語力向上プログラム合同研究会 参加者：94人	パネルディスカッション ・バイリンガル・バイカルチュラル人材育成を目指した授業づくり ・ICTを活用した日本語力向上プログラムの実践と課題、今後の方向性 ・日本人学校教師のネットワーク構築
2021/5/22	第1回オンライン情報交換会	対面・オンライン授業での効果的な日本語支援・学習活動 (マニラ、大連、青島以外の申込64人)
2021/6/19	第2回オンライン情報交換会	バイリンガル・バイカルチュラルとしての成長を支える学級づくり —表現活動を重視して— (マニラ、大連、青島以外の申込49人)
2021/7/17	第3回オンライン情報交換会	多文化共生の学校づくり (マニラ、大連、青島以外の申込52人)
2021/11/27	2021日本人学校における日本語力向上プログラム合同研究会	バイリンガル・バイカルチュラル人材育成の汎用性のあるプログラムとは

表3

AG5 日本人学校日本語力向上プログラム合同研究会 アンケート結果			
■前半の趣旨説明とパネリストの発表について		■後半のパネルディスカッションについて	
とても参考になった	38人	とてもよかった	38人
参考になった	14人	よかった	13人
どちらともいえない	1人	ふつう	2人

そこで、二二年度は多くの研修機会を設けることで参加者の願いに応えらるとともに、参加者との意見交換からより汎用性のある日本語力向上プログラムのヒントを得たいと考えました。現在、マニラ、大連、青島の日本人学校、それぞれが主催するオンライン情報交換会が実施され、各校の取り組みをもとにして日本語力向上プログラムについて深めていくところです。このオンライン情報交換会は、すでにAG5のWEBサイトで紹介している各校の実践事例

「もっと情報が共有したい・交流したい」という願いが強く示されているように思います。各地の教育現場での実際の困り感から、より切望する声が高まっていたのかもしれない。次のオンライン教育研修を望む声も多く、新たな取り組みに対する関心が高まっていることがわかります。

このアンケートを見ると、二〇年八月の国内待機中の派遣教員向けオンライン教員研修と共通する部分も多いのですが、「さらに追究したい」、「もっと情報を共有したい・交流したい」という願いが強く示されているように思います。各地の教育現場での実際の困り感から、より切望する声が高まっていたのかもしれない。次のオンライン教育研修を望む声も多く、新たな取り組みに対する関心が高まっていることがわかります。

年度の日本人学校における日本語力向上プログラム合同研究会には九十四人の参加者があり、いっきにネットワークが広がりました。三校以外の先生方もコロナ禍において、本当に困っていたのだと思います。参加された方々の声を、アンケート(表3)から一部抜粋して紹介します。

○「ここまでオンラインでできるんだー」という驚きを覚えるとともに、各日本人学校でチームを組んでの研究が素晴らしいと感じた。オンラインでもどの学校でも、子供たちの実態をできる限り把握し子供に寄り添った実践だった。

△ICTの課題として指摘されている活用するところ等勉強になった。いただいたアイデアをすぐに実践したい。今後の教育実践に向け展望が開けた。

△時間が短かった。このアンケートを見ると、二〇年八月の国内待機中の派遣教員向けオンライン教員研修と共通する部分も多いのですが、「さらに追究したい」、「もっと情報を共有したい・交流したい」という願いが強く示されているように思います。各地の教育現場での実際の困り感から、より切望する声が高まっていたのかもしれない。次のオンライン教育研修を望む声も多く、新たな取り組みに対する関心が高まっていることがわかります。

や成果のまとめを活用しています。参加者には事前に目を通していただきアンケートにも答えていただくことにより、意見交換の内容を焦点化して深められるようにしています。

https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme2/Maria_book_2020.pdf
<https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme2/dairen2020.pdf>

https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme2/Quinto_book_2020.pdf
また、意見交換の様子から、参加者もコロナ禍での教育活動に慣れてきたように見えます。もちろん今でも次々に起こる新たな課題への対応もあり、直近の情報を得たいお気持ちはお持ちです。さらにバイリンガル・バイカルチュラル人材育成という共通の視点から、以前より落ち着いて議論が深まっているように感じます。

これから十一月までに、さらなる実践とともに情報交換会での意見交換を参考にして、バイリンガル・バイカルチュラル人材育成の汎用性のあるプログラムについてまとめます。その成果を十一月二十七日の「二〇二二日本人学校における日本語力向上プログラム合同研究会」で発信し、参加者と協議する予定です。このオンライン教員研修にはAG5のWE

Bサイトから申し込めますので(<https://ag-5.jp/report/theme2/study/detail/132>)、ご関心のある皆様、ぜひご参加ください。

オンライン教員研修の成果と課題、今後の可能性

オンライン教員研修は、コロナ禍において急速に充実してきました。その原動力は予測困難な状況に置かれた先生方の「何とかしたい」という切なる願いにあります。次々と襲ってくる困難な状況において教育活動も激変し、課題解決のために先生方が情報を求めていたことがプラスに働いたと言えるでしょう。

ネットワークも急速に広がりました。マニラ、大連、青島の日本人学校の実践成果を広く発信したいと考えていたAG5のメンバーにとって大変でしたが、振り返って見れば好機であったことがわかります。ともすると孤軍奮闘することになりがちな日本人学校の教員にとって、オンライン教員研修の幕開けは大きな転機であり、待ち望んでいたものでもあったと言えるでしょう。

しかしながら、迅速に情報を共有し意見交換をして教員同士のつながりが促進されることのみでは、オンライン教員研修の成果としては十分

ではありません。やはり、内容がもっとも重要です。

本稿で紹介したオンライン教員研修では、マニラ、大連、青島の日本人学校の日本語力向上のための実践や他地域の先進的な実践事例等が参加者の関心を高めたことがわかります。また、AG5のWEBサイトに掲載した実践冊子やまとめの活用は効果的でした。アンケートから参加者の実践への動機付けになっていることがわかります。

さらに、オンライン教員研修に向けての学校全体での取り組みや、三校が連携・協働して進められたことも成果と言えるでしょう。多くの先生方の活躍の場があり、実践に裏付けられた自信に満ちていた姿が印象的です。教師としての成長を実感できる場でもあったように思います。

一方、研修内容や方法にはまだまだ課題があります。「多様な地域の特色に合わせた応用ができる提案には至っていないこと」、「ICTに関する情報不足や課題の未整理」、「時間内に十分な協議ができていないこと」などです。参加者のニーズを汲み多様な研修が実施できるよう工夫する必要があります。

今後は、汎用性のある日本語力向上プログラムを提案できるよう研究

を進めるとともに、オンライン・ハイブリッド・対面の授業形態を意識したICT活用の課題、個別支援のバイカルチュラル人材としてのキャリア形成などについても幅広く取り上げていきたいと考えています。

また、広がりつつある教員のネットワークを国内や在外教育施設だけでなく現地校の教員へも広げたり、フォーマルな研修以外に交流できる場を設定したりすることができれば、面白い視点も得られそうです。オンライン教員研修がより魅力的なものとなり、各地の新たな実践につながる事ができるよう、積極的に企画・実施して参りたいと思います。

